

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：23102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17000

研究課題名(和文)内戦における市民アイデンティティの形成と変容に関する比較研究

研究課題名(英文)Comparative Study on Formation and Transformation of Civilian Identity in Civil War

研究代表者

窪田 悠一(Kubota, Yuichi)

新潟県立大学・国際地域学部・講師

研究者番号：40710075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、内戦を通じた一般市民のアイデンティティの形成・変容に関する理論的考察及び実証分析を行った。特に、なぜ、ある内戦では市民の国家に対する帰属意識が希薄化し、民族などの政治社会集団に対するアイデンティティが強まる一方で、他の内戦事例ではこうしたアイデンティティの顕在化がみられないのかという問題を、1)内戦中の市民の経験や2)反乱軍による領域統治の両側面から説明することを試みた。この目的のため、スリランカ北・東部地域、インドネシア・アチェ州、パキスタン・連邦直轄部族地域において質問票調査を実施し、民軍関係に関する体系的なデータの収集・分析を行った。

研究成果の概要(英文)：This research project aimed to theorize and empirically analyze the formation and transformation of civilian identity in civil war. In particular, focusing on 1) wartime experience of civilians and 2) territorial control by rebel organizations, it attempted to answer the question of why civilians' sense of belonging to the state weakens and that to sociopolitical groups (e.g., ethnicity) strengthens in some cases of civil war (but not in other cases). To systematically collect and analyze data on civil-military relations, I conducted questionnaire surveys in the northern and eastern regions in Sri Lanka, Aceh Province in Indonesia, and the Federally Administered Tribal Areas in Pakistan.

研究分野：比較政治学、国際関係論

キーワード：内戦 市民アイデンティティ スリランカ インドネシア・アチェ州 パキスタン・連邦直轄部族地域

1. 研究開始当初の背景

近年における内戦研究では、その過程における反乱軍や国家の組織及び行動についての分析が蓄積されてきた。しかしながら、内戦中のこれらの軍事組織による行動が市民やコミュニティ・レベルでの社会制度にどのような影響を与えるか、という問題については、逸話的な言及は多いが、体系的なデータの収集や理論の構築・検証は進んでいなかった。特に、本研究のように、個人レベルの要因と構造レベルの要因の双方を視野に入れた分析はまだ行われていない。このように、本研究では学術的に未開拓のテーマに取り組むという点に特徴があった。内戦後社会における平和構築は困難を伴う。本研究の知見は、内戦を通じた市民のアイデンティティの変容や形成に着目することで、その戦後社会への長期的な影響を十分に理解し、それに対する国家や国際組織、NGO 等による効果的な平和構築政策を形成するためにも重要になるものと考えている。

2. 研究の目的

内戦後社会における平和構築は、紛争中に生じた文脈のために常に困難を孕んでいる。例えば、内戦の過程でそれまでの近隣住民間の関係が薄れ、市民の間で民族を中心とした結びつきが強まるなど、既存のローカル・ネットワークが崩壊するにつれて、市民のアイデンティティが「分裂 (polarize)」することなどがしばしば指摘されている。1983 年の内戦勃発前のスリランカ東部地域では、タミール、シンハラ、ムスリムなどの住民集団が対立することなく共存していたが、紛争の激化に伴って、戦闘から逃れるために集団ごとの人口の移動が行われた。このため、各村落では民族的な均質化がもたらされるようになり、アイデンティティの分裂が促進される結果となった。このように、軍事組織による暴力や政治・軍事的動員といった内戦下でみられるプロセスは、敵・味方の境界線を鮮明にしながら、民族などのアイデンティティを鮮明にさせる傾向がある。しかしながら、こうしたアイデンティティの分裂は常に起こるわけではない。例えば、エルサルバドル内戦 (1980-1992 年) では、地域住民は求めに応じて反乱軍への水や食糧の提供が強制されたものの、自分たちの政治社会的な信条に基づいて軍事組織への非協力的立場をとることが出来た。またアイデンティティの分裂が生じた後でも、それが修復に向かう場合もある。ペルー内戦 (1980 年-) では、反乱軍の市民に対する暴力が激化するにつれて、反政府活動に対する協力が減少し、逆に国家や中央政府に対する支持が高まった。では、なぜ、ある内戦では市民の国家に対する帰属意識が希薄化し、民族、宗教、階級、地域コミュニティといった下位国家的な集団に対するアイデンティティが強まる一方で、他の

内戦事例ではこうしたアイデンティティの顕在化がみられないのであろうか。逆にいえば、なぜ、市民間の対立が先鋭化するような内戦の状況にもかかわらず、彼らの国家アイデンティティが維持、もしくは強化されるのであろうか。本研究では、内戦と市民のアイデンティティに関する、こうしたリサーチ・クエスチョンに答えることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、内戦後社会における市民のアイデンティティを、1) 内戦中の市民の経験、また 2) 反乱軍による領域統治の両側面から明らかにした。これらはそれぞれ個人レベルの要因、また構造レベルの要因と捉えることが出来る。まず前者では、軍事組織による暴力や強制移住などといった個々の市民の内戦中の経験が彼らのアイデンティティに及ぼす影響を考察した。内戦によって (特に敵対する集団から) 身体的、もしくは財産所有物に対する直接的な損害を被った人々は、そうでない者に比べてより紛争後も強い民族ナショナリズムを持つ傾向があることが指摘されている。ここではそうした要因に加えて、反乱軍による保健、教育、治安、司法、金融などの公共サービスの受給の経験を考慮した。反乱軍はしばしば自らの支配地域において高度な行政システムを構築し、市民に対して国家同様の公共サービスを行っており、これらは反乱軍の支配地域を「疑似国家」化することで市民の中央政府に対する帰属意識を相対的に弱めていることが想定される。構造的要因については、反乱軍が組織全体としてこのような公共サービスを支配領域内で実施していたかを考察の対象とした。先行研究が示す通り、反乱軍は市民に対する幅広い公共政策を行っていたが、彼らがいかなる統治機能を有しているかは内戦の事例によって大きく異なる。ここでいう統治機能の概念は、上記のような公共サービスの提供に留まらず、法制度の整備や実際の統治に対する市民の参加の度合いなどを含むものとする。ただ、反乱軍がこうした政治的機能を備えていたとしても、その支配領域下の個々の市民が統治の恩恵を受けていた (と感じていた) が否かは構造的な文脈に焦点を当てただけでは分からない。本研究では個人レベルと構造レベルの双方に着目しながら、より効果的な分析枠組みを提供することができる。

4. 研究成果

本研究では、内戦事例ごとに一般市民に対する質問票調査を実施した。ここでは、調査対象地域・対象者の選定や質問票の作成といった準備段階を経た後に、聞き取りを実施した。対象となった国・地域はスリランカ北・

東部、インドネシア・アチェ州、パキスタン・連邦直轄部族地域である。

パキスタンでの調査からは多くの市民が一人一票制の導入や「辺境犯罪規則」の撤廃を望んでいることが明らかになった。連邦直轄部族地域では伝統的な部族地域独自のシステム「パシュトゥンワリ」に基づく自治が行われてきており、近代的な民主主義制度は統治原理として機能してきたわけではなかった。このような環境における市民の意識の変化の背景には、内戦中の民軍関係や中央政府機関との関係性の構築などがあると考えられる。本事例の分析は論文としてまとめ近々学術誌に投稿する予定である。同様にアチェ州で実施された調査に関しても、データの取りまとめが終了し、論文の執筆に取り掛かる準備が整っている。

スリランカの事例に関しては、反乱軍の領域統治と市民のアイデンティティや信頼関係との関係性を考察した論文をすでに刊行している。まず、前者に関する論文(“Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka,” *World Development* Vol.90, February 2017)では、なぜ、またどのように個人の内戦中の経験がその後のサブナショナルな対象に対する親近感に影響を及ぼすのかについて論じている。調査データを構造方程式モデリングによって分析をしたところ、市民の反乱軍(タミル・イーラム解放のトラ、LTTE)による領域統治の認識は内戦後におけるサブナショナル・アイデンティティの形成を促進するということが分かった。つまり、LTTEの領域統治の影響は内戦後社会においても色濃く残っているということが出来る。このようなことから、内戦によって荒廃した社会を立て直すためには、こうした民軍関係の遺産を考えなければならないことが示唆される。内戦後の市民アイデンティティは、LTTEによる事実上の統治の産物である。戦後復興を目指す政権にとっては新しいナショナル・アイデンティティをいかに生み出すかという点においても、こうした影響を考慮しなければならないであろう。

後者に関する論文(“Nonviolent Interference in Civic Life during Civil War: Rebel Service Provision and Postwar Norms of Interpersonal Trustworthiness in Sri Lanka,” *Security Studies*, forthcoming)では、内戦中のLTTEによる公共サービスの提供が内戦後社会における市民間の信頼関係に及ぼす影響を分析した。既存の研究の多くは内戦中の暴力が人々の信頼関係に及ぼす影響に焦点を当てていたものの、内戦の非暴力的な側面に注目したものはなかった。操作変数を用いた分析からは、LTTEから公共サービスの提供を受けた経験があればあるほど、他者への信頼度が低くなるということが分かった。しばしばLTTEは効率的なサービス提供のために地域コミュニティに深く介入し、そこにおける社会制度

を作り変えた。こうした社会制度の変容は、それまで住民を結び付けてきた地域組織を解体させるに至った。内戦後社会における復興には、こうした内戦中の制度変容の影響を考慮に入れなければならないであろう。つまり、持続的な社会経済発展のための政策は、こうした内戦中に生まれた制度に代わる新しい仕組みを提供しなければならないことを示唆している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

Yuichi Kubota. “Nonviolent Interference in Civic Life during Civil War: Rebel Service Provision and Postwar Norms of Interpersonal Trustworthiness in Sri Lanka,” *Security Studies*, Vol.27 No.3, pp. 514-533, 2018. 査読有り

Yuichi Kubota. “Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka,” *World Development* Vol.90, pp.199-212, 2017. 査読有り

[学会発表](計 6 件)

窪田悠一. “Non-Violent Interference in Civic Life during Civil War: Rebel Service Provision and Post-war Trustworthiness Norms in Sri Lanka.” 日本比較政治学会、成蹊大学、2017年6月。

Yuichi Kubota. “Explaining Post-civil War Trustworthiness Norms: Wartime Rebel Governance and Service Provision in Sri Lanka.” 中西部政治学会(MPSA)、シカゴ(米国)、2017年4月。

Yuichi Kubota. “Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka.” アメリカ政治学会(APSAA)、フィラデルフィア(米国)、2016年9月。

Yuichi Kubota. “Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka.” Pacific Peace Science Conference (PPSC)、同志社大学、2016年7月。

Yuichi Kubota. “Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka.” 中西部政治学会(MPSA)、シカゴ(米国)、2016年4月。

窪田悠一. “Imagined Statehood: Wartime Rebel Governance and Post-war Subnational Identity in Sri Lanka.” 国際地域研究学会、新潟県立大学、2015年12月。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

窪田 悠一 (KUBOTA, Yuichi)

新潟県立大学・国際地域学部・講師

研究者番号：40710075